

# 胃がん患者に対する手術時の 腹水細胞診の実施率



## 測定対象

《分子》 分母のうち、当該入院期間中の胃悪性腫瘍手術時に腹水細胞診が実施され患者数

《分母》 胃悪性腫瘍手術が施行された退院患者数

## 解説

腹水細胞診により、腹腔内のがん細胞の有無から進行期を確認し、進行期に応じた治療を検討することができます。

## 結果

2019年度 61 %

2018年度 41 %

## 分析

進行胃がん（漿膜浸潤の疑わしい症例）に対しては、正確な進行度を評価する目的に全症例で腹水細胞診を実施しています。当院の進行胃がん患者の割合を考慮すると妥当な結果であり、進行期に応じた治療実施していると考えます。